

2007年度社会福祉法人生活クラブ事業報告

****法人全体として*****

- サービスの質を高めるため、「社会福祉法人生活クラブ 全事業・職種共通研修一覧」及び「各事業別研修一覧」を整備し、カリキュラムに沿った研修を実施しました。21世紀の風福祉塾は、年間テーマを「真の個別支援のために—ユニットケアの現場から—」とし、風の村で全5回開催しました。
- 事業管理力を高め、安定した経営基盤を確立するため、各事業所において、部門管理責任者による予算管理に取り組んできましたが、十分とは言えない状況です。また、CMBO等人事制度検討委員会において、課題検討し、一定の成果がありました。新たな人事制度づくりは、現在行なっている経営改革で検討していきます。

- 生活クラブ千葉グループ連絡協議会の事務局を担い、積極的に参加しました。部会についても、星数部会、社会的企業研究会ちばともに、メンバーとして参加し、社会的企業研究会ちばは、事務局を担いました。さくら風の村介護ステーションは、さくら星数シンポジウムにパネラーとして参加しました。
- ケアプランセンター風の村が県の監査により改善勧告を受けました。勧告事項に対する改善を誠実に実施するために、日常業務のチェック体制、管理体制、研修の強化をします。これらの改善は生活クラブの全居宅介護支援事業所において実施し、法令順守に取り組みます。

****ホームヘルプ*****

- 千葉県の第三者評価を受審し、全事業所がA評価90%以上の評価を得ました。
- 法人全体としての介護福祉士受験対策講座は開催せず、各事業所ごとに勉強会や講習会を開きました。

- 早朝夜間のニーズにこたえていくため、長時間ワーカーのモデル実施を行なった津田沼介護ステーションの振り返りを受け、長時間ワーカーを1名増員しました。しかし、ほとんどの事業所で、ヘルパー不足は解消されていないのが現状です。

****デイサービスセンター*****

- ともしびの家で回想法の実践をし、今年度も3名が回想法インストラクター講座を受講しました。また、11月には法人主催回想法インストラクター養成講座を開催し5名が受講しました。

- 法人内や印旛ふくしネットワーク、小規模デイサービス千葉県連絡会で交換研修を行ないました。

- それぞれのデイサービスが、立地条件や規模、建物の特徴を考慮しながら利用者のニーズにこたえられるよう工夫しました。しかし、競合が激しいデイサービス事業において、各デイサービスセンターが特色を十分に打ち出せなかったことから、デイサービスセンター風の村、どんぐりの家を除いて、計画を大幅に下回る事業成績に終わりました。



****居宅介護支援****

- 認知症介護研究・研修東京センター開発「センター方式」を共有アセスメントツールと定め、従来のツールと併せて、活用を開始しました。
- 予防プランへの移行に伴い、地域包括支援センターと連携を取り、利用者に対して介護給付と予防給付の違いを十分に説明し、理解を得てから移行を行なうよう努めました。
- ボランティアのケアシステムへの位置づけに向

けて VAIC（生活クラブ・ボランティア活動情報センター）と部門管理責任者有志で、意見交換会を開催しました。市原介護ステーションでは利用者の制度で賄いきれない要望（本人のリハビリを目的とした散歩等）に対してボランティアを導入しました。風の村・特養の施設ケアプランに於いても、地域との交流や生活への彩の部分で、ボランティアを組み入れています。

****相談事業****

- 社会資源の連携と活用を意識し、常に情報の共有と相談者の支援を心がけました。しかし、支援の方向性や質の確保・統一を図ることには取り組めませんでした。この実現のためにも、法人内で相談事業に取り組む職員の交流、研修の場をつくっていくことが必要となっています。

在宅介護支援センター

- よりきめ細やかな相談体制を整備し、どんな相談にも丁寧に応じました。相談ケースの内容によっては必要な事業者（訪問看護ステーションへのプラン紹介や小規模多機能居宅介護支援

事業所）への紹介を行ないました。

中核地域生活支援センターあいネット

- 柏市が中核市に移行するに伴い、中核センター機能の必要性について県と協力しながら柏市に働きかけました。
- 他の社会資源につなげることを基本にしながら、それでもある隙間については生活支援も含め行ないました。
- 広報紙「じんけんぼん」を毎月発行し、地域資源マップ情報と合わせてホームページにアップしました。

****風の村****

特別養護老人ホーム

- ICF の視点に基づいた個別ケアを実践するために、センター方式の書式を取り入れたケアプラン（施設計画用紙）の書式変更を行ないました。
- 口腔ケアについては、訪問歯科と連携を図り個別口腔ケアの指導を受けています。
- 栄養マネジメントは、管理栄養士との連携で行なっています。
- 月に2回訪問してくださる理学療法士の指導で、個別の残存能力の維持向上を図っています。
- 個別の傾聴ボランティアや毎週のクラブ活動など、ケアプランの中に、ボランティアを位置づけ始めました。また、デイサービス（風の村・ゆめぼっち）、風の村保育園との交流もあり、ク

ラブ活動と一緒に参加しています。

ショートステイ

- デイサービスを利用の方については、デイサービス利用時の聞き取りを行ない、情報を共有しています。
- ケアプランの書式変更は行なっておりませんが、各居宅支援事業所より居宅支援サービス提供表を頂き、利用者、家族の希望を基にプラン作成に努めています。ADL表の変更を行ない、注意点を分かりやすくし、事故防止に努めています。



- ※ ICF…（介護が必要な人や障害のある人などの）一人ひとりの健康状況を個人因子だけでなく、環境因子も含めた関係性の中で分類するもの。
- ※ ADL（Activities of Daily Living）…日常生活動作。人間が毎日の生活を送ための基本的動作のこと。

******保育園******

- 2007年4月に風の村保育園が開園しました。豊かな自然環境、隣接する特別養護老人ホーム風の村など、その特徴を活かした保育を実践しつつあります。
- 合同研修などの交流により、わらしこ保育園と風の村保育園がお互いの保育を知り、学びあう機会となりました。

- 経験のある流山わらしこ保育園では学びあい、学んだことの反芻により質の高い保育を目指しました。一方、1年目の風の村保育園は土台作りに努めました。
- 流山わらしこ保育園では病状に合わせた病後児保育は好評で、信頼を得られています。また、風の村保育園では休日保育の利用がありました。

******あかとんぼ事業******

- 6月にNPOあかとんぼ福祉と事業統合し、未就学児童の預かり事業や印旛学童クラブあかとんぼを児童デイへ移行し、事業の安定化を図りました。
- 例年あかとんぼとして参加している各種バザー（特別支援学校バザーや地域イベント）に参加しました。コンサートは残念ながら今年度は実

- 施しない事になりましたが、来年度はあかとんぼとして10周年にあたるので実施を目指します。
- さくら風の村に併設されるとんぼ舎は、開所が2008年3月になってしまいました。利用者や保護者には数回にわたり説明を行ない、理解を得ることができました。

******新規事業******

さくら風の村

- 工事の遅れが大きな要因でオープンが遅れましたが、11月26日に利用が始まりました。
- 自宅で暮らしたい思いを実現するように、各サービス事業の連携を進めています。
- 医療ケアの技術を職員が獲得できるよう学習会を行ないました。（在宅酸素等）デイサービスとショートステイの相互利用者が徐々に増えています。またターミナルケアの方のショートステイ利用にあたって主治医を含めた担当者会議を開催しています。

- さくら風の村訪問診療所は、在宅療養支援診療所として、24時間365日のオンコール体制を敷き、患者に信頼される医療を提供できるよう努力しています。

ライフ&シニアハウス市川

- 「市川開設準備室」が発足し、オープンに向け準備を進めています。2008年9月にオープン予定です。



******2007年度 事故発生件数******

()内は事業所数	物損	対人	遅刻	不履行	車輛	その他	苦情	合計
訪問・居宅介護事業所(10)	37	8	21	25	15	16	5	127
デイサービス(4)	1	17	0	0	9	3	0	30
相談事業(3)	0	0	0	0	0	1	0	1
保育園(2)	0	4	0	0	1	0	0	5
風の村(3)	1	45	0	2	2	5	0	55
さくら風の村(4)	2	11	4	9	6	2	2	36
あかとんぼ事業(3)	1	12	0	2	0	9	0	24
本部	0	0	0	0	0	4	0	4
合計	42	97	25	38	33	40	7	282

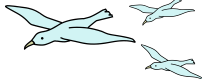
2007年度決算報告

1. 事業収支の状況

収支の状況は、増収減額でした。既存の介護保険事業が厳しかったものの、2つ目の保育園「風の村保育園」や在宅総合支援センター「さくら風の村」の開設、NPO法人あかとんぼ福祉会との事業統合（小規模作業所運営や知的障がい児の放課後学童等）等の幅広い福祉事業を地域に積極的に進めたことにより、収入は前年を上回ることが出来ました。一方、支出については、特に在宅総合支援センター「さくら風の村」開設にあたっての一時的多額な経費支出がありました。経常収支差額は計画を上回ることができました。

事業活動収支計算書概略（2007年4月1日～2008年3月31日） 単位：千円

項目	事業活動収入	前年比	事業活動支出	前年比	経常収支差額	前年比
計画	1,612,054		1,587,393		12,999	
実績	1,548,364	103.4	1,515,493	104.2	22,425	59.5
予算比	96.0		95.5		172.5	



2. 貸借対照表（2008年3月31日現在） 単位：千円（千円未満切捨て表示）

資産の部		負債の部	
流動資産合計	311,021	流動負債合計	193,070
現金・預金	59,960	短期運営資金借入金	76,000
未収金	246,881	未払金	73,966
立替金	2,215	施設設備等未払金	4,757
前払金	1,714	預り金	3,734
貯蔵品	127	前受金	80
その他流動資産	121	仮受金	833
固定資産合計	1,898,157	賞与引当金	33,697
基本財産合計	1,578,061	固定負債合計	890,837
建物	1,415,644	設備資金借入金	717,195
土地	162,417	長期運営資金借入金	171,177
その他の固定資産合計	320,096	退職給与引当金	2,464
建物	12,681	負債合計	1,083,907
構築物	140,977	純資産の部	
機械及び装置	10,609	基本金の部	
車輛運搬具	6,172	基本金	112,455
器具及び備品	56,070	基本金	112,455
土地	12,172	国庫補助金特別積立金	855,588
建設仮勘定		国庫補助金等特別積立金	855,588
権利	6,973	その他の積立金	45,013
ソフトフェア	5,771	移行時特別積立金	9,013
投資有価証券	4	修繕積立金	36,000
長期預け金	7,552	次期繰越活動収支差額	112,214
積立預金	60,018	（うち当期活動収支差額）	21,157
その他の固定資産	1,094	純財産の部合計	1,125,271
資産合計	2,209,179	負債及び純財産の部合計	2,209,179

3. 資金収支計算書（2007年4月1日～2008年3月31日）

単位：千円（千円未満切捨て表示）

勘定科目		予算	決算
経営活動による収支	収入		
	介護保険収入	1,212,340	1,115,906
	利用料収入	131,096	140,587
	療養費等収入	5,461	6,342
	運営収入	123,505	128,385
	私的契約利用収入	4,583	6,222
	スワン受託収入	13,648	15,407
	経常経費補助金収入	71,330	69,423
	寄付金収入	4,814	9,007
	雑収入	10,080	21,426
	就労支援事業収入	265	359
	借入金利息補助金収入	1,084	1,363
	受取利息配当金収入		91
	経理区分間繰入金収入	30,709	28,555
経常収入計	1,608,920	1,543,079	
支出			
人件費支出	1,216,271	1,141,883	
事務費支出	186,756	187,639	
事業費支出	110,367	111,276	
借入金利息支出	12,744	11,900	
経理区分間繰入金支出	30,709	28,555	
経常支出計	1,556,850	1,481,255	
経常活動資金収支差額	52,069	61,824	
施設収支等による収支	収入		
	施設整備等補助金収入	68,758	68,758
	固定資産売却収入	466	466
	施設設備等寄付金収入	1,000	2,866
施設整備等収入計	70,224	72,090	
支出			
固定資産取得支出	496,614	479,309	
施設整備等支出計	496,614	479,309	
施設設備等収支差額	△426,390	△407,219	
財務活動による収支	収入		
	借入金収入	527,900	527,900
	借入金元金償還補助金収入	3,250	3,250
	積立預金取崩収入		25,031
	その他の収入		973
	財務収入計	531,150	557,154
	支出		
	借入金元金償還金支出	19,008	19,084
	積立預金積立支出	11,000	36,034
	その他の支出		476
財務支出計	30,008	55,595	
財務活動資金収支差額	501,141	501,558	
予備費	17,000		
当期資金収支差額合計	109,821	156,164	
前期末払資金残高	△4,515	△4,515	
当期末払資金残高	105,306	151,649	